

2015年度学校自己評価(中学校・高等学校)の中間報告

2015年12月7日

「学校教育法」「学校教育法施行細則」に基づき、2015年度に実施した「学校自己評価」中間報告をいたします。

(1) 報告までの概要

学院に学校自己評価委員会を設置し、前年度の結果をふまえて内容の再検討を行ない、「学校自己評価アンケート」を作成した。調査対象は学院の中高の教職員(非常勤講師は除く)とし、10月半ばに実施、11月に集計、12月に理事会に報告した。

(2) 評価項目と評価方法

I : 評価項目

学校運営、教育内容、生徒指導・支援、教員研修・資質向上の4つの分類とし、それぞれに評価項目と観点を設けて実施した。今年度は前年度の38項目から51項目に増やし、より細かな評価ができるようにした。

II : 評価方法

4段階の評価を行った。

A:よくあてはまる B:ややあてはまる
C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

(3) 2015年度学校自己評価アンケート用紙

2015年度 大阪信愛女学院中学高等学校 学校自己評価							
長期的重点テーマ	命を育む女子教育						
2015年度の重点テーマ	信じ合い、愛し合う心をみんなのなかに						
今年度の重点目標	命を育む者にとって、己を信じ、他者を信じること、己を正しく愛し、他者を正しく愛することは、命を育むものの基本でありながら、また到達点でもある。その具体的な手段として、挨拶を通して互いの人間としての尊厳を認め合い、静かな黙想の時間を通して、一人の存在としての自己の尊厳についても確かめる機会を持つようにする。						
下記のそれぞれの評価項目について、A～Dの評価のうちいずれか1つを答えてください。							
A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない							
学 校 運 営	私学の 独自性	1 建学の精神について	建学の精神が教職員、生徒・保護者など、学校関係者などによく浸透している。	A	B	C	D
		2 愛校心について	在校生、卒業生は学校に誇りや愛着を持っている。	A	B	C	D
		3 カトリックの教えに基づく教育	宗教に基づく教育に対する生徒・保護者の理解がある。	A	B	C	D
		4 家庭との連携	学校に対する保護者の期待・要望を把握している。	A	B	C	D
	教育課程	5 教育計画について	年間を通じた教育計画を各教科別に立てている。	A	B	C	D
		6 教育課程の見直し	コース・類型に応じた見直しを行っている。	A	B	C	D
	教員間連携	7 教員・教科間連携状況	教員間・教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	A	B	C	D
		8 会議の有効性	会議の内容の精選と検討事項の事前での伝達を行っている。	A	B	C	D
	財務関係	9 財務に関する意識と財務状況	学校の経営指標と財務状況について理解し、予算・決算の状況について把握している。	A	B	C	D
		情報公開	10 ホームページの活用状況	学校のホームページで可能な範囲の情報公開をしている。	A	B	C
	11 授業公開状況		保護者などへ授業を公開している。	A	B	C	D
	危機管理	12 役割分担について	事故・事件・災害等に対処する役割分担や、備蓄・設備の状況を把握している。	A	B	C	D
		13 危機管理対応状況	危機管理マニュアル、警察・消防との連携、訓練などの安全対策は十分にとられている。	A	B	C	D
	開かれた学校づくり	14 地域交流について	地域住民との交流が行われ、地域行事への参加が盛んである。	A	B	C	D

学 校 運 営	広報活動	15	校内説明会	説明会参加者に好印象を与えるような企画・運営をしている。	A	B	C	D
		16	中学校・塾訪問	中学校・塾への訪問が十分であり、新規開拓にも努めている。	A	B	C	D
		17	データの共有	各分野の分担を適正に行い、データを正確に処理し活用している。	A	B	C	D
教 育 内 容	カトリック教育	18	心の教育	朝礼・終礼の実施、宗教行事、宗教の授業を通して心の教育を行っている。	A	B	C	D
	人権教育	19	研究体制	人権教育に関するさまざまな課題や指導方法を教員が研究する体制がある。	A	B	C	D
		20	教育体制	人権尊重の教育において、さまざまな学習方法で意識を高める教育を行っている。	A	B	C	D
		21	いじめ防止対策	生徒の日常の変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている。	A	B	C	D
		22	障がい者対策	障がい者に対する支援を行っている。	A	B	C	D
	情報教育	23	情報能力育成	生徒の情報活用能力の育成を図っている。	A	B	C	D
		24	情報のモラル育成	情報の発信に伴う責任など、情報のモラル向上のための教育を行っている。	A	B	C	D
	環境教育	25	環境問題意識向上	ゴミリサイクル・省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育をしている。	A	B	C	D
		26	実践的態度の育成	生徒に清掃・校内美化に取り組みさせている。また施設・設備を大切にすることを育成している。	A	B	C	D
	教科指導	27	理解度の把握	個々の生徒の学力理解度を把握し、それに応じた指導ができています。	A	B	C	D
		28	能力の伸長	コース別・少人数授業など、個々の生徒の能力を伸ばすための体制ができています。	A	B	C	D
		29	教育機器の利用	教育機器を十分に活用している、	A	B	C	D
		30	模試などの分析活用	模試結果を共有し、学力向上に役立たせている。	A	B	C	D
	キャリア教育	31	キャリア教育の推進	高校1年生では全般に、2年生からはコース設定にも組織的・系統的にキャリア教育を取り入れている。	A	B	C	D
	学校行事	32	スポーツ活動	体育大会・球技大会などのスポーツに関する学校行事は盛んである。	A	B	C	D
		33	文化・芸術活動	文化祭、観劇会などの芸術鑑賞、自然体験学習や修学旅行などの行事は十分に行われている。	A	B	C	D
	国際教育	34	国際理解の推進	修学旅行や海外研修なども含め、他国の歴史・の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を行っている。	A	B	C	D
特別活動	35	部活動	部活動は活発である。	A	B	C	D	
	36	生徒会活動	生徒会活動や委員会活動を通して、生徒が主体的に活動できる体制が整っている。	A	B	C	D	
その他	37	読書推進	図書館の利用促進による読書指導に取り組んでいる。	A	B	C	D	

生 徒 指 導 ・ 支 援	その他	38	ボランティア	東北などの被災地支援を行い、困難に遭っている人々への関心を持ち、チャリティなどを含めたボランティア活動を積極的に行っている。	A	B	C	D	
	生徒指導	39	指導方針の一貫性と生活指導	学校の生徒指導は一貫した方針を持っており、かつ個々の生徒の状況に応じた生活指導が組織的に行われている。	A	B	C	D	
		40	生徒会活動	生徒会活動・委員会活動を通して生徒が主体的に活動できるよう支援している。	A	B	C	D	
	生徒支援	41	学習について	個々の生徒の実態に合わせた学習支援の方法の工夫・改善を行っている。	A	B	C	D	
		42	進路について	生徒一人ひとりの興味・関心・適正に応じた進路選択ができるような支援体制がある。	A	B	C	D	
		43		併設短大との連携体制が整い、適切な進路指導が行われている。	A	B	C	D	
		44	保健・衛生	体調不良・怪我等への対応は適切である。	A	B	C	D	
	教員 研 修 ・ 資 質 向 上	教員研修	45	保健室の機能	保健室の機能は十分に果たされている。	A	B	C	D
			46	教員の資質向上	教員間で授業内容を評価し、意見の交換などを行う機会がある。	A	B	C	D
			47	校内研修	身近なテーマの研修計画を立て、効果的な研修を行っている。	A	B	C	D
48			初任者のサポート状況	初任者等、経験の少ない教員をサポートする体制がある。	A	B	C	D	
49			校外研修	教員が校外研修に参加できる体制が整っている。	A	B	C	D	
50	研修結果の共有	研修、研究に参加した成果を、教員間で共有する体制がある。	A	B	C	D			
その他	事務室	51	接遇	事務室の保護者や来航者に対する対応が適切である。	A	B	C	D	

特記すべき問題点	
具体的改善方策	

(4)2015年度学校自己評価アンケート中間報告

長期的重点テーマ	命を育む女子教育
2015年度の重点テーマ	信じ合い、愛し合う心をみんなのなかに
今年度の重点目標	命を育む者にとって、己を信じ、他者を信じること、己を正しく愛し、他者を正しく愛することは、命を育むものの基本でありながら、また到達点でもある。その具体的な手段として、挨拶を通して互いの人間としての尊厳を認め合い、静かな黙想の時間を通して、一人の存在としての自己の尊厳についても確かめる機会を持つようにする。

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	評価の観点	評価項目	A	B	C	D	2015年度 中間 (A+B)	2014年度 (A+B)	2013年度 (A+B)
学校運営	私学の 独立性	1 建学の精神について	10.2%	72.9%	15.3%	1.7%	83.1%	91.7%	93.0%
		2 愛校心について	22.4%	58.6%	19.0%	0.0%	81.0%	86.7%	94.8%
		3 カトリックの教えに基づく教育	24.1%	62.1%	13.8%	0.0%	86.2%	95.0%	94.7%
		4 家庭との連携	5.2%	60.3%	32.8%	1.7%	65.5%	91.6%	89.5%
	教科課程	5 教育計画について	56.9%	32.8%	10.3%	0.0%	89.7%	96.6%	94.7%
		6 教育課程の見直し	34.5%	46.6%	17.2%	1.7%	81.0%	-	-
	教職員 連携	7 教員・教科間連携状況	10.3%	60.3%	22.4%	6.9%	70.7%	83.3%	86.0%
		8 会議の有効性	6.9%	41.4%	48.3%	3.4%	48.3%	63.4%	66.7%
	財務関係	9 財務に関する意識と財務状況	10.3%	60.3%	25.9%	3.4%	70.7%	70.0%	70.2%
	情報公開	10 ホームページの活用状況	27.6%	55.2%	15.5%	1.7%	82.8%	90.0%	96.5%
		11 授業公開状況	62.1%	37.9%	0.0%	0.0%	100.0%	98.3%	96.4%
	危機管理	12 役割分担について	24.1%	55.2%	20.7%	0.0%	79.3%	90.0%	93.0%
		13 危機管理対応状況	24.1%	46.6%	27.6%	1.7%	70.7%	88.3%	87.7%
	開かれた 学校づくり	14 地域交流について	6.9%	50.0%	41.4%	1.7%	56.9%	81.7%	77.2%
	広報活動	15 校内説明会	29.3%	53.4%	13.8%	3.4%	82.8%	-	-
		16 中学校・塾訪問	15.5%	37.9%	29.3%	17.2%	53.4%	-	-
		17 データの共有	10.3%	39.7%	37.9%	12.1%	50.0%	-	-
教育内容	カトリック教育	18 心の教育	53.4%	43.1%	3.4%	0.0%	96.6%	-	-
	人権教育	19 研究体制	12.1%	58.6%	27.6%	1.7%	70.7%	78.3%	82.4%
		20 教育体制	22.4%	55.2%	19.0%	3.4%	77.6%	93.3%	84.3%
		21 いじめ防止対策	41.4%	51.7%	6.9%	0.0%	93.1%	-	-
		22 障がい者対策	25.9%	56.9%	17.2%	0.0%	82.8%	-	-

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	評価の観点	評価項目	A	B	C	D	2015年度 中間 (A+B)	2014年度 (A+B)	2013年度 (A+B)	
教育内容	情報教育	23 情報能力育成	15.5%	70.7%	10.3%	3.4%	86.2%	-	-	
		24 情報のモラル育成	19.0%	69.0%	12.1%	0.0%	87.9%	-	-	
	環境教育	25 環境問題意識向上	13.8%	56.9%	27.6%	1.7%	70.7%	66.6%	64.9%	
		26 実践的態度の育成	43.1%	55.2%	1.7%	0.0%	98.3%	98.3%	89.5%	
	教科指導	27 理解度の把握	13.8%	75.9%	8.6%	1.7%	89.7%	95.0%	98.3%	
		28 能力の伸長	25.9%	58.6%	15.5%	0.0%	84.5%	90.0%	91.2%	
		29 教育機器の利用	29.3%	51.7%	19.0%	0.0%	81.0%	76.7%	94.7%	
		30 模試などの分析活用	20.7%	62.1%	15.5%	1.7%	82.8%	86.6%	89.5%	
	キャリア教育	31 キャリア教育の推進	37.9%	60.3%	1.7%	0.0%	98.3%	-	-	
	学校行事	32 スポーツ活動	41.4%	48.3%	10.3%	0.0%	89.7%	-	-	
		33 文化・芸術活動	56.9%	36.2%	6.9%	0.0%	93.1%	-	-	
	国際教育	34 国際理解の推進	36.2%	53.4%	10.3%	0.0%	89.7%	80.0%	77.2%	
	特別活動	35 部活動	53.4%	43.1%	3.4%	0.0%	96.6%	93.3%	93.0%	
		36 生徒会活動	19.0%	58.6%	22.4%	0.0%	77.6%	76.7%	78.9%	
	その他	37 読書推進	8.6%	46.6%	32.8%	12.1%	55.2%	65.0%	64.9%	
		38 ボランティア	50.0%	46.6%	3.4%	0.0%	96.6%	98.3%	94.6%	
	生徒指導・支援	生徒指導	39 指導方針の一貫性と生活指導	25.9%	69.0%	1.7%	3.4%	94.8%	86.6%	87.7%
			40 生徒会活動	22.4%	55.2%	19.0%	3.4%	77.6%	-	-
生徒支援		41 学習指導について	24.1%	63.8%	10.3%	1.7%	87.9%	96.7%	91.1%	
		42 進路指導について	27.6%	60.3%	10.3%	1.7%	87.9%	96.7%	89.3%	
			32.8%	53.4%	12.1%	1.7%	86.2%	-	-	
		44 保健・衛生	51.7%	44.8%	3.4%	0.0%	96.6%	-	-	
			41.4%	51.7%	5.2%	1.7%	93.1%	-	-	
教員研修・資質向上	46 教員の資質向上について	8.6%	60.3%	24.1%	6.9%	69.0%	96.7%	89.5%		
		13.8%	46.6%	37.9%	1.7%	60.3%	83.4%	80.4%		
	48 初任者のサポート状況	1.8%	36.8%	49.1%	12.3%	38.6%	50.5%	49.1%		
		8.6%	51.7%	36.2%	3.4%	60.3%	58.4%	54.4%		
	49 校外研修	0.0%	37.9%	53.4%	8.6%	37.9%	51.7%	51.8%		
		14.0%	59.6%	24.6%	1.8%	73.7%	-	-		
その他	事務室	51 接遇	14.0%	59.6%	24.6%	1.8%	73.7%	-	-	

(5) 評価の概要と改善策

例年と比べると、ほとんどの項目で厳しい結果となっている。10月時点での評価ということもあり、項目によっては取り組み半ばであったり、まだ実施されていない項目もあり、中間時点での評価が難しいケースもある。また、本年度から校長も変わり、新たな取り組みに対しての緊張や戸惑いもあり、指導の難しさも感じ始めた時期でもあった。昨年と違い、この中間報告を受けて、評価項目の具体的な対策を検討し実施できるのは、1年を通して考えた時、より有効な取り組みに繋げていけると考える。

そこで今回は評価のA・Bの合計が70%未満の項目、及び昨年度より15%以上低くなっている項目に対し、具体的な改善策を示し、評価の向上に努めていきたい。

- <4> 年末の予定で保護者アンケートを実施し、保護者の要望・期待を把握していく。
- <8> これまで以上に会議の議題申込用紙を活用して議題を明示し、連絡事項の簡素化を図る。また各種の会議の検証を行い、会議の場において出席者からの意見も聞く。
- <13> 避難訓練の今年度の実施計画は12月であることが原因と思われる。
- <14> たとえば吹奏楽部やコーラス部・Sクラブなど、地域の活動に活発に参加しているが、実情が伝わっていないのではないかとと思われるので、報告をその都度行う。
- <16> 中学校訪問はこれまで以上の260校を訪問した。塾訪問については効果・方法を含め検討する。
- <17> 訪問記録を積極的に開示し、共有できる環境を作る。
- <20> 朝礼放送をこれまで以上に大切にする。
- <37> 図書館との連携を強め、図書館ニュースなどを利用し、読書の推進、図書購入などを促す。
- <46> 3学期に教科の枠を越えて観察授業を実施し、担当教員と意見交換を行い報告書を提出する。
- <47> 建学の精神に関する研修はすでに行っており、3学期にはさらに講師を迎えた研修会を計画している。
- <48> 今年度は新任及び新担任がいなかったため、研修を実施していない。
- <49> 申し出があるものに関しては時間割変更を行い、極力出張が可能なように配慮している。また指名によって出張に行ってもらうことを推進していく。
- <50> 出張報告や資料を閲覧できるようにする。